

じょうきょうじ

浄敬寺だより



発行日 平成三十一年一月一日 第三十二号

【法語】

一切の有情は、みなもつて

世々生々の父母兄弟なり。

『歎異抄』第五章 真宗聖典六二八項

【意識・解説】

全てのいのちあるものは、皆、長いいのちの歴史・歩みの中において父母兄弟であるからです。それは、いのちの繋がりから見れば、あらゆる命が父や母であり、兄や弟であるからです。

私たちは血のつながりのなくても、ご近所の方や顔見知りの方を「お父さん・お母さん」と呼ぶことがあります。「あらくお父さん、この間はどうもお世話になりました」「お母さん、お茶飲みに来ないかね」当たり前前に使ってきた言葉ですが、私たちがつながりあった命を生きていることを言い当てたような会話です。人だけではなく、水も空気も大地も全てが、私たちにとって父であり母であり兄弟姉妹であること。この感覚の薄れが、現代の様々な問題を引き起こしているかもしれません。

2018 年後半写真展

↓有縁講



↑ 年末法話会 feat. くれあい講座 →



↓お寺でお茶席体験↓



特別に作っていただいた東本願寺キヤラクター「蓮ちゃん」



↓三条別院 音楽法要



←歎異抄をよむ会

↑しまい講↓



☆巻頭法話『年頭にあたり』☆

新春のお喜びを申し上げます。昨年の七月から地域の見守り活動の一環として柏小・一中子ども見守り隊という活動に参加しています。子どもたちの登下校時の交差点に立ち、安全に横断できるよう誘導するものです。何をしても長続きしない物ぐさな私ですが、この活動だけは何とか続けられています。天候の悪い日など、どうしようかと迷うこともありませんが、子どもたちが登校してくる時間になると行かずにおれない何かに突き動かされて出かけていく毎日です。最近の私たちの身に周りでは信じられない事件も報道されており、子どもが犠牲になる事件も多発していることが見守り活動が行われている理由の一つでもあります。柏崎市の防災無線で流される放送は、行方不明、熊の出没、不審者出現の三つが多いように感じられ、何となく現代社会の縮図が現れているようです。高齢化社会、地域の過疎化、社会環境激変に伴う人間性の歪みなどによって起こっている現象とも言われます。特に三番目の問題はごく一部の特殊な事例だとは言え、子どもを始め弱いものをターゲットにした卑劣な犯罪であり、社会全体で対処していかなくてはなりません。私も小さい孫を持つ者として出来ることをやろうと参加しています。毎朝交差点に立ちますと、いろ

んなことに気が付きます。きちつと清々しい挨拶をする子、人懐っこく話しかけてくる子、全く挨拶もせず無表情で登校していく子、時間ぎりぎりにふらふらしながら歩いてくる子。様々な子どもたちの様子を通して子どもを育てていくことの難しさと大切さを感じます。親を選んで生まれてきたわけではない子どもたちが、どう育っていかはもちろん親の責任によることが大ですが、ネットを始め様々な情報が溢れている現代社会においてはそれだけでは限界もあるように思います。最近のいじめによる子どもの自殺の問題が多くニュースになっています。一日の大部分を過ごす学校の責任はもちろん重いものがありますが、子どもたちが一番普段の姿に戻ることが出来る家庭や地域という場がどういう場であるのかということも全ての人たちが考えてみなければなりません。私たちは何か問題が起こるとその責任を他に求め勝ちです。そうした方が気が休まるということもあるかも知れませんが。

「人のわるき事は、能く能くみゆるなり。わがみのわるき事は、おぼえざるものなり。」(蓮如上人御一代記聞書)

私たちの眼は常に外に向いていて、それぞれが評論家のように、自分の目の前の出来事、人物に対して、様々に評価を下しています。しかし、私の眼球が外は

見えても、私自身を見るとときには鏡が必要であるように、自分自身のこととはなかなか問題にできないようです。「子どもは社会の宝物」私が市役所に勤めていた時の最後の職場「子ども課」で大切にしていた言葉でした。社会の宝物ということの根源は、私は子どもはみんな仏様の子であるからと考えてきました。退職して間もなく九年になります、そんなことを改めて思い出しながら、ささやかでも自分に出ることをやっていこうと思う毎日です。今年も皆様と共に間法して参りたいと思います。よろしくお願い申し上げます。

合掌

(住 職)



☆庫裡便り (坊 守)

◎住職と結婚して四十年になりました。寺のことを何も知らず嫁いだ私の先を歩み、道を照らし続けた住職と家族、ご門徒の皆様にご感謝の日々です。寺での生活を通して感じたことを「貪り(むさぼり)」をテーマに、三条別院秋の彼岸会早朝六時半から一時間程、ドキドキしながらお話をさせていただきました。(四十年記念?)

◎当院は昨年四月から良寛記念館館長になり、遠くへの出張や講演依頼の多い年でした。三条別院や近隣のお寺様で良寛さんをテーマにした法話をする機会もいただき有り難く思っています。

◎昨年十月十日、聞光寺様を会場に坊守女性研修会が開催され、講師は節談説教の祖父江佳乃さん。聖人様流罪の地越後での恵信尼様との暮しが想像されるようなお話でした。女性ご門徒の方から大勢参加いただきました。今年六月二十六日、新潟の木場場教会で説教大会が開催されることになっており、祖父江さんも来られます。そこで准坊守(晴香)の御伝抄拝読も予定されていますので、皆さん一緒にいかがですか。

◎かしわざき大使に任命された二女千晶は、昨年四月に長岡で文学座公演「牡丹燈籠」に出演させていただきました。大勢の皆様から観劇いただきました。今年も七月十一日に長岡リリックホールで公演が予定されています。テネシー・ウイリアムズ原作の「ガラスの動物園」という舞台で、登場人物が四人だけだそうです。詳細決まりましたら、またご案内させていただきます。



☆二〇一八年後半を振り返って

◎秋彼岸（お中日・九月二十三日）法話 住職

自分を善人として他者の方が間違っているとしたのが人間のあり方であり、それが本質的な人間の闇です。浄土真宗の教えでは、仏様のはたらきをひかりのはたらきにたとえられて、その光は人間の持つ深い闇を破ってくださいと説いています。如来様やお浄土に還っていかれた私たちの先祖様に手を合わせることをとおし、いつか又還っていくであろう世界、彼岸を思い、その彼岸の世界で仏となつて私どもを導いてくださるご先祖を諸仏としていただいでいく中で、ともども仏様の光に出遇わせていただきたいと思えます。

◎『音市場』開催（九月二十三日）

市内の飲食店やギャラリーを会場に、フリーパスチケットで巡ることができ音市場の会場として今年もご縁をいただきました。ピアノニストの小田さん、ピアノと鍵盤ハーモニカの「MCさん」、クラシック音楽やミュージカルソングのMissさんの三組の方々から演奏していただき、心地よいひと時でした。

◎お寺でお茶席体験（九月二十四日）

しばらくお休みしていたお茶会を、主に子ども向けに開催しました。本堂で手を合わせ、絵本を読んだ後、毛氈を敷いてお茶席風に飾りつけた庫裡にて、お茶とお菓子を楽しましました。この企画に合わせ、最上屋さんより東本願寺キャラクター「蓮ちゃん」の上生菓子をご用意に作成していただきました。可愛すぎて食べるのが勿体無い！との声も。お茶を点てるお手伝いを快く引き受けてくださった皆様にご心より御礼申し上げます。



◎三条別院報恩講お取り越し十一月五〜八日

十組団体参拝（八日）

十組の団体参拝には、浄敬寺から六名の方と住職が参加し、結願日中（御満座）をお参りし、親鸞仏教センター研究員の田村晃徳師のご法話を拝聴しました。別院にておときをいただいた後は、恒例の寺泊の鮮魚センターを経由し帰泊しました。

報恩講期間中、坊守はお鍵役の接待やおときの手伝いと、教区の坊守会長としてのお役目も果たしました。初日の音楽法要は、参詣者三百名を超える満堂だったそうです。坊守と一緒に浄敬寺御門徒二名の方から合唱団としてご参加いただきました。晴香も女声だけのお勤めの指導役兼当日の伽陀師としての大役を無事に果たすことができました。



◎赤倉有縁講 団参（十一月十三〜十四日）

今年も間光寺様の団体と一緒にバスツアーに、三名の方と坊守とで参加しました。赤倉ホテルの温泉に浸かりながらゆっくり聴聞してまいりました。御法話は上越の金子正美先生でした。今年は六十周年記念の有縁講で、沢山の方の参詣がありました。翌日は長野のりんご狩り、ベジタブルランチバイキングとワイナリーに立ち寄り、帰路に着きました。皆さんも来年ぜひ一緒にしませんか？

（坊守 記）

◎しまい講（十一月二十六日）法話・住職

「命日」は「いのちの日」と書きます。この言葉は、自分自身と何らかの形で関りをもって生きてこられた、その亡くなった方の人生というものをとおして、その方の眼差しに出会い、今こうして生きている自分自身の生き様を見つめてみる。そういう感覚を呼び起こす言葉ではないでしょうか。親鸞聖人が「教行信証」の中に引用された、「先に生まれん者は後を導き、後に生まれん人は先を訪え」というお言葉はまさにこのことを私どもに教えて下さって

います。

「お講」は法話・お勤め・おときまで一連の仏事です。今年最後のお講お勝手を下原地区の皆様から担当していただきました。ありがとうございました。



◎年末法話会 feat. 柏崎市生涯学習「ふれあい講座」

(十二月十六日)

先ず、住職より法話があり、そのあと物故者追弔法要が勤まりました。そして、柏崎市総合医療センター院長の藤原正博先生から、「老後をいきいきと過ごすためにー知っておきたい医療との上手な付き合い方」という講題でお話いただきました。

お話では、現在の日本医療は世界でも恵まれた環境にあり、具体的には風邪を引いただけで医師による医療治療をすぐに受けられるのは先進国でも稀であるということでした。また衝撃だったのが「名医などいない」ということでした。治療は全てチームワークであり、ある分野に特筆した能力を持つ医師はいますが、その医師一人で全て治療している訳ではないとのことでした。その他多くの医療にまつわる諸問題をお話いただきました。印象深かったのは、先生が医療の問題は解決する事がなく、それだけに常に不完全だと言っていたことです。このことは不完全な人間の作り出したものからは、人間自身を救うことは決しない、だからこそ仏様の教えを聞かねばならないのではないか、という親鸞聖人の教えに繋がると思っています。

医療の先にあるお話を是非、これからも皆様と一緒に聞いていきたいと思えました。

(当院 記)



☆お寺潜入レポート 第二回

浄敬寺の中の意外と知られていないこと(内部情報?)を准坊守・晴香目線でお知らせする『お寺潜入レポート』。昨年の新年号『お庭がきれいですね』の秘密』に続き、今回は「お庭がきれいですね」のヒミツです。

☆本堂のお仏花

本堂のお荘厳としてお飾りしているお花は、定期的に市内駅前のかはし花店さんからお届けいただきます。



報恩講お引き上げにて、当院が筒や支柱を駆使して活けているお仏花も、たかはし花店さんからのお花がメインです。夏の子どもの日にはミニコンサートで演奏してくださった先生方への花束を、店舗休業日にも関わらずお届けいただきました。

☆庫裡のお花

それでは、庫裡のちょっとしたお花は…というと、坊守が境内地のいたるところに植えて育てているお花も勿論使っておりますが、近年のメインは、おとき事の度にお勝手のお手伝いをしてくださっている、御門徒の武本さんがご自身で育てられたお花です。



9月の「お寺でお茶席体験」の際に飾ったお花。ワレモコウが素敵ですね。



季節のお花を抱えきれないほど届けてくださいます♪



武本さんとゴマすりお手伝いの次男

☆二〇一九年前半の行事予定

一月一日 修正会勤行 朝六時より
 一月一～二日 年始参



*真宗門徒の一年は、御本尊のお参りから始めましょう

一月十二日(土) 歎異抄をよむ会 午前九時～

二月九日(土) 歎異抄をよむ会 午前九時～

三月十六日(土) 柏刈同朋の会報恩講(産業文化会館)

法話 田代 俊孝 師
 (仁愛大学学長・同朋大学客員教授)
 午後一時三十分～

三月十八～二十四日 春彼岸

*お中日 二十一日(春分の日)
 午前十時半～法話・勤行後・おとき

四月十三日(土) 歎異抄をよむ会 午前九時～

五月二十一日(火) 報恩講お引き上げ 午前十時～

法話 今泉 温資 師
 引き続き 勤行・おとき

*小学校の運動会と重なることが予想される為、日にちを変更してお勤めします。

「報恩講」は、真宗門徒にとつて最も重要な年中行事です

六月八日(土) 歎異抄をよむ会 午前九時～

六月二十二日(土) 仏教文化講演会 十三時半～

*講師未定 後日詳細ご案内いたします

六月二十六日(日) 木揚場布教大会(新潟市中央区礎町)

説教使 祖父江佳乃師、今泉温資師、ほか

*晴香が『御伝鈔』を拝読します

六月三十日(日) 夏の法話会 午後一時半～

七月十一日(木) 二女千晶文学座公演(長岡リリックホール)

七月十四日(日) 盆参会(盆内) 両日とも十時半～

十五日(祝) 法話・勤行・おときがあります

八月四日(日) 夏休み子どもの集い 午後四時～

八月十三日～十六日 盂蘭盆会(お盆)

十三日・・・ 午前六時より 本堂にて勤行

定例法話会『歎異抄をよむ会』のご案内

*日時 基本的に第二土曜日午前九時より

*内容 『歎異抄』の解説、正信偈のお勤め

終了後、自由参加で茶話会あり

*持ち物 赤本 念珠 『歎異抄』の冊子



☆第二十回 晴香の『真宗門徒のマメ知識』

今回のテーマは『報恩講』ってな〜に？です。

ちょっと解説！

以前にも解説したテーマではありませんが、前回、春の法要を旅行記と共にご紹介しましたので、今回は『報恩講』について解説します

☆『報恩講』とは？

親鸞聖人のご命日は旧暦で十一月二十八日です。報恩講は親鸞聖人の御命日の年忌法要と言ってもよいでしょう。字の通り、親鸞聖人の御恩に報いる日です。

では、どうすることが恩に報いることになるのでしょうか？それは、長いのちの歴史の上に誕生した私が生きていく上で、どうしても知らなければならぬこと、聞いていかなければならぬことをあきらかにしてください、そのご縁に感謝してお勤めをし、今一度その教えを確かめる（仏法聴聞）するのが、年に一度の報恩講です。

☆いつ始まったの？

親鸞聖人のひ孫で本願寺の三代目・覚如上人が、親鸞聖人の三十三回忌法要をお勤めするにあたり、『報恩講私記(式文)』『嘆徳文』を記されました。これは現在も、御本山や別院だけでなく、各寺院でも拝読されていますが、合わせて法要の次第を事細かに決めたそうです。同朋唱和ができるように正信偈に節を付けられたのは本願寺第八代の蓮如上人です。お勤めの内容は異なりますが、今につながる法要形式がこの時定まったこととなります。

☆『報恩講』は、いつ・どこで勤まる？

真宗大谷派の本山である東本願寺・別院・各寺院、またご自宅のお内仏でもお勤めします。

*東本願寺

十一月二十一日の午後〜二十八日午前にかけて七昼夜

*三条別院 『お取り越し報恩講』

十一月五〜八日にかけての三昼夜

実際のご命日十一月二十八日に先立って勤めるため、「お取り越し」と言われて親しまれています。

*各寺院 それぞれの寺院で日時や日数は異なります

お取り越しもお引き上げも、十一月二十八日のご命日の法要をまえて勤めるとい意味です。

浄敬寺では、『報恩講お引き上げ』として、落慶法要記念の五月十九日(今年は二十一日)にお勤めしています。

*御門徒宅

今では全国的にも減ってしまいましたが、真宗門徒には、それぞれの家族で日にちを設定し、家族間でも、報恩講を勤めてきた歴史があります。

☆浄敬寺報恩講お引き上げに、ぜひお参りください

寺院の年中行事の中で、順番をつけるとすれば、最も重要な行事が報恩講です。坊守のおとき作りも気迫が違います(笑)お申し込みは不要です。どなた様もお気軽にお参りください。

こちらをご持参ください



かたぎぬ 肩衣・ねんじゆ 念珠・あかほん 赤本

庫裡に受付があります



本堂にて法話・法要の後、庫裡にておときです。

①法話



②勤行



どうぼうしょうわ 同朋唱和 ↑
ごぞくしやうはいどく 御俗姓 拝読



③おとき



↑精進料理にこだわった手作りのおとき
チームワーク抜群の台所スタッフの皆様↑

☆当院の仏教名言集 第二十七回『仏師』

仏師とは仏像彫刻を専門とする彫刻師のことです。最近、子どもたちがテレビで天才仏師の運慶、快慶の存在を知り、奈良の大仏門の仁王像を運慶と快慶が造ったと教えると、見たいということ、昨年十一月二十二日、本願寺の「子ども報恩講」をお参りした翌日、奈良の大仏殿に行ってきました。運慶と快慶の造った仁王像にも「お〜」と驚いていましたが、あまりにも大きい大仏様にはもっと驚いたらしく、特に三男の弘信は「わあ〜」と感嘆の声をあげていました。

大仏様は正式には廬舎那仏という名前の仏様で宇宙全体に説法する仏様と言われています。別名は大日如来で、我々にはこちらの名の方が親しみがあると思います。以前、先生に仏様の様相について、優しく教えていただいたことがありました。その時教わったのが、大日如来は「朝日の仏様」、阿弥陀如来は「夕日の仏様」と教わりました。大日如来は日の出の様に「いよいよ救う」という力強さがあり、阿弥陀如来は夕暮れの夕日（最後）も闇も「すべて受け止める」という慈悲の仏様だと教わりました。それを作品に投影するように、運慶は大日如来像を始め、筋骨隆々の力強い仏像を得意とし、快慶は浄土宗を信仰して自らを「安阿弥陀仏」と称して、繊細で穏やかな阿弥陀如来像を得意としました。

作風の違う二人の天才仏師でしたが、共に生涯仏像を彫ることでお浄土に往生できると浄土往生を願っていたそうです。そこには妥協というものが無かったです。現代作家の作品で、「お〜」や「わあ〜」と感動するような作品になかなか巡り遇わないのは、技術ではなく、そういう根なのかも知れません。

（ 当 院 ）



☆編集を終えて：

平成最後の半年が駆け抜けていきました。皆様はどのように過ごしになられたでしょうか。

全国公募によって選ばれ、清水寺の貫主によって揮毫される今年の漢字は「災」でした。西日本豪雨、夏の猛暑、北海道胆振東部地震と、傷ましい自然災害に見舞われた一年を思い返しました。

そしてこの年末、福島県から母子避難し新潟に移住された方のお話をお聞きするご縁がありました。東日本大震災から七年以上経過し、災害直後とは異なる問題があることを知りました。

私たちの国はこれから新しい元号のもと、東京オリンピックや大阪万博に向けて加速していくのかも知れませんが、昭和の戦争、平成の災害事故は、決して風化してはいけなものと、改めて思わされています。巻頭法語のとおり、人とも自然環境とも「世々生々の父母兄弟」であることを忘れずにいたいものです。新しい年も皆様と共に歩んで参りたいと思います。本年もどうぞよろしくお願いたします。

（ 晴 香 ）

☆メールアドレス

住職 tom814@kismet.or.jp

当院 minipapa@kismet.or.jp

晴香 haru310@kismet.or.jp

☆ブログ

『真宗大谷派浄敬寺

小僧☆はるかの気まぐれ日記』

https://blogs.yahoo.co.jp/haru_0310_naga

本年もよろしく
お願い申し上げます

